

広告

弁天歴史公園の「楽山居」で「俳句実践教室」の参加者が記念撮影。「楽山居」は尚古社社主を務めた旧石狩医院の院長・鈴木信三氏が建てた和室で、かつては「尚古社」の句会が開かれたことも。平成12年に再建され、昭和12年の建築当時の姿を床の間や欄間などに偲ぶことができます。

俳句のまち～いしかり～を知る DVD(写真左)と吟行マップ

DVDは市民図書館で閲覧でき、吟行マップは学び交流センターや市公民館、市民図書館などで配布中です。



「尚古社」から始まった 俳句のまち～いしかり～

「尚古社」誕生から160年。石狩は今もなお、
俳句づくりが盛んなまちです。
平成17年に始まった「俳句のまち～いしかり～
俳句コンテスト」は、回を重ねて今年で一般の部が
第12回、子どもの部が第11回となりました(今年
の結果は27ページをご覧ください。10月16日(日)
は花川南コミュニティセンターで表彰式が行われます)。
これからも私たちには「尚古社」の歴史的背景を
踏まえつつ、俳句を大切な文化財として、市民の
皆さんへ、子どもたちへ伝えたいと願っています。
が広がる石狩。ぜひ皆さんも一句ひねつてみませ
んか?

「尚古社」誕生から160年。石狩は今もなお、
俳句づくりが盛んなまちです。
平成17年に始まった「俳句のまち～いしかり～
俳句コンテスト」は、回を重ねて今年で一般の部が
第12回、子どもの部が第11回となりました(今年
の結果は27ページをご覧ください。10月16日(日)
は花川南コミュニティセンターで表彰式が行われます)。
これからも私たちには「尚古社」の歴史的背景を
踏まえつつ、俳句を大切な文化財として、市民の
皆さんへ、子どもたちへ伝えたいと願っています。
が広がる石狩。ぜひ皆さんも一句ひねつてみませ
んか?

か つて石狩には「尚古社」という俳句結社がありました。安政3(1856)年に結成された記録が残され、道央地区でも最古の歴史を誇ります。「尚古社」の活動は本町地区を中心に昭和20年代まで続き、石狩場所の請負人で村山家7代目の村山金八郎や、石狩役所詰の役人たち、明治期には村山家や井尻家の漁業家支配人、樺太アイヌの共済組合長、缶詰製造会社の社長や小学校校長、病院院長などが「尚古社員」として名を連ねています。彼らの足跡は私設「石狩尚古社資料館」が保管する数多くの短冊や句集に残されており、彼らの俳句への情熱を今に伝える貴重な資料となっています。



NPO法人石狩市文化協会 会長
「俳句のまち～いしかり～」
実行委員会 委員長
富木 須磨子さん

「俳句のまち～いしかり～」
実行委員会とは
平成17年度に市内8団体
が「いしかり芸術座運営委員会」を立ち上げ、取り組みの一つに全国公募の俳句コンテストを企画。同20年度からはNPO法人石狩市文化協会が引き継ぎ、「俳句のまち～いしかり～」実行委員会を組織し、活動しています。